

論文を書くうえでいちばんたいせつなことは、何故この論文を書くに至ったのかという理由をはっきり示すこと、この研究によって新しくわかった知識は何であるかということをはっきりと示すことです。

以下、具体的に順を追って述べます。

タイトルページ タイトルページの記載事項は論文の標題、著者、所属、などです。論文の標題は要領良く内容を代表するもので、あまり長くなる場合には、標題に副題を付けることが許されています。

著者が複数で、それぞれの所属が異なる場合には、著者名の右肩に星印とともに1, 2, 3…と番号を付け、それぞれの著者に対する所属を、その印のもとに書くようにします。

本誌では、「原著」には標題、著者名、所属機関それぞれの英文表記が必要です。

抄録 論文とは、『ある目的をもって得られた所見を記載し、結論を導き出したうえで、これらが、新しい知識として第三者に伝える必要があると判断して、その内容を発表するもの』です。したがって、要約には、この研究目的、方法、具体的な結果、または所見、および結論を、規定語数内(通常 400~600 語)にまとめなければなりません。

緒言 緒言は通常三つの部分に分けています。第一の paragraph では、まず問題を提起し、その意義を明らかにします。第二の paragraph では、その問題に関し、今までどのような研究がなされ、何が解決され、何が未解決のまま残っているかを、文献を挙げながら論じます。第三には、著者が、未解決の問題をどのように解決したか、何故、この問題を研究しなければならなかったかを明らかにしていきます。このように緒言を書くと、それを読んだだけで、論文の内容がわかるはずで

図表 本文は図や表の説明をしながら記載がなされてゆきますが、忙しい読者の多くは、緒言と要約、および、図・表を見て理解しようと試みるでしょうから、

図や表には必ず短い説明を書くことが、どの雑誌においても要求されています。これがあるのとないのとで、論文の読みやすさに大きな差が出ます。また、図表には、非常によく知られた省略語以外は、その省略語の説明を欄外に入れなければならないことになっています。また%などでは、表の欄内の数字にいちいち入れる代わりに、整理して、与えられた数字が%であることを説明すると、表が読みやすくなります。また、年齢なども同様に整理して書く読みやすくなります。

考按 考按は、緒言に挙げた目的に沿って、自分の所見から合理的な思考過程によって何を結論とすることができのるかを書くところです。考按に過去の歴史を書いている人もしばしばみかけますが、歴史は緒言にしなければならないものです。考按の最初は、自分の選んだ方法が正確で、データが信頼できること、また、症例報告ならば、診断の正しいことを述べたうえで、結論を導いてゆきます。その際、自分の所見から言えることと言えないこととはっきりと見極め、結論でできることだけを示す必要があります。この点がしっかりしていないと、良い論文にはなりません。論文は、経験を述べるのではなく、知識となるものをその根拠とともに示すところであるからです。知識とは、データに裏付けされ、いつでも通用するものであり、推論や個人の経験とは違うものです。したがって、考按における結論の導きかたにより、その論文が信頼されるかされないかが決まると言えます。

文献 世界中のいろいろな雑誌によって文献の引用のしかたがいろいろです。本文中に引用論文の著者と発表年号を括弧内に入れてあるものや、また引用文献に番号を付けてこの番号を本文中に括弧に入れてあるものや、また番号を引用箇所の肩に付けるものなどがあります。文献引用を肩付番号にすると本文が中断されず読みやすいので、だいたい我が国では多くこの方法が採用されています。